

(要約版)

## 『家計調査』データによる嗜好品消費に関する実証分析

助成研究者 岩本光一郎 (愛知東邦大学経営学部)

### 1. 目的

味覚や臭覚を楽しむために摂取され、心身の高揚感や酩酊感などをもたらす嗜好品、中でもたばこ、酒はたばこ税や酒税の対象であり、それらは税込の中でも大きな割合を占めてきた。近年においても、たばこ税の税込は年2兆円、酒税は年1~2兆円程度で推移しており、税源としてかなり重要なものと言える。

一般に嗜好品は、酩酊感などをもたらす物質を含有するため習慣性の強い財であり、嗜好品消費支出は増税等による価格上昇があっても、習慣性のない財よりは消費支出の落ち込みが抑えられる。たばこ税や酒税が、多くの国で安定財源として扱われてきたのは、この面の影響が少なからずあったものと考えられる。

他方で嗜好品は、その消費支出が流行や新製品の当たり外れなど一過性のブーム等に左右されることもあり得る。こちらの面が強くなる場合は、税源としての安定性に負の影響があることになる。

本研究では、①たばこ②ビール類③ビール以外の酒④珈琲&紅茶という嗜好品への支出の推移が、長期においてどういう傾向を持ち、また短期的に増税など政策ショックにどう反応するであろうかということを検討して、たばこ税や酒税が税源として今後も期待できるかどうかということを考察し、政策運営に役立つインプリケーションを提供することを目的とする。

### 2. 方法

本研究の検証対象としては、過去30年間(1983~2014年)に亘る『家計調査』個票データを用いる。この『家計調査』個票データから、目的に応じて以下の2つのデータセットを構築し、使用した。

①30年分のプールド・クロスセクションデータ：嗜好品支出の長期的傾向の検証を行うために、各世帯の嗜好品支出額・総支出額(いずれも実質値)の平均月額を30年間(1983~2014年)分、積み上げた(以下、この嗜好品支出実質額を実質総支出額で割った比率を支出シェアと呼称する)。このデータセットを用いて、全世帯の30年間の嗜好品消費支出のトレンドを観察し、さらに支出の変動を、Age-Period-Cohortモデル(以下、APCモデル)によって時代・年齢・出生コホートの効果に分解、嗜好品支出のこれまでの変動の要因を探り、これからの推移を予想しやすくする。

②世帯単位の6か月パネルデータ：『家計調査』個票から6waveの世帯パネルデータを構築した。このパネルデータを使い、家計の総消費支出のうち嗜好品支出の習慣性に

ついでに検証を、上述の世帯パネルデータにBrowning and Collado(2007)に倣った消費支出の習慣性を検証するモデルを適用して、システムGMMで推定することで実施する。

### 3. 結果

上記二つのデータセットを用いた分析で、以下の結果を得た。

- ①**たばこ**： 高齢者層、若い出生コホートの方が、支出シェアが低くなる傾向があり、その傾向にはコホートの影響の方が強い。急激にたばこを購入しない世帯が増える中、たばこを購入している世帯の、たばこへの支出の習慣性は現在も弱くなっていない（やや強くなっているようにすら見える）。市場の展望としては先細りだが、たばこへの忠誠心の高い消費者に支えられている。
- ②**ビール類**： 高齢者層、若い出生コホートの方が、支出シェアが低くなる傾向があり、その傾向にはコホートの影響の方が強い。しかも近年は時代の推移と共に支出シェアが下がるトレンドがあり、非購入世帯の割合も増加している。これから市場の展望は、あまり明るくないと言わざるを得ない。また、ビール支出には習慣性があるが、それはたばこに比して非常に弱いものである。
- ③**酒類（ビール類以外）**： 高年齢・若いコホートほど支出シェアが下がり、支配的なのはコホートの影響である。非購入世帯の割合は、近年は減少しているが、今後の市場の展望としては、よくて現状維持、基本トレンドは高年齢比率の上昇とコホート効果による縮小とみる。なお、酒類については消費支出の習慣性を検出できなかった。
- ④**珈琲紅茶**： 高齢者が好む傾向があり、しかも世代間での好みの差があまりないことが分かった。しかも、洋風生活の浸透の影響か、非購入世帯も大きく減少し、時代の推移と共に支出シェアが上昇する傾向も見せている。今後の展望として、市場の拡大に希望が持てる。ただし、珈琲紅茶の消費支出に習慣性は検出できなかった。

(1)今後の市場の展望と(2)消費者の性質の観点から税源としてどの嗜好品が望ましいかを考えると、(1)(2)を共に満たすものはなく、次善の選択肢であるたばこについても、今後も税収を安定させるには増税不可避で、税の公平性の歪み拡大、弱者の負担増につながる可能性が高い。永らくわが国の税源を担ってきたたばこ税、酒税であるが、今後望めるのは良くて現状維持、おそらくは税収の減少であり、事態を見据えた今後の対応が希求されている。